

かたち
ロベルタ・リマ『水の象』

ウィーンとヘルシンキの二都市を拠点に活動するブラジル人アーティストのロベルタ・リマは、建築から創作のキャリアをスタートし、現在はパフォーマンスを中心に精力的に発表を重ねています。KYOTO EXPERIMENT 2018では新作インスタレーションと、塚原悠也(contact Gonzo)をコラボレーターにパワフルなパフォーマンスを展開します。

昨年、伏見の招徳酒造にて日本酒の仕込みを体験したりマは、洗米や床もみといった酒造りのプロセスから本作の着想を得ました。痛みを伴う身体の改造や拡張をテーマにした初期作品や、メタフォルカルな巨大構造物との実験的な関わりなどを経て、リマは現在「水」に強く感心を抱きます。本作では、気象条件によって形態を変える水というエレメントを用いて、社会における女性の役割について自身の思考に応答します。

ロベルタ・リマ『水の象』
インスタレーション
日時：10月6日(土)～21日(日)10:00～20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00～22:00
※10月21日(日)は17:00まで

パフォーマンス1
日時：10月8日(月・祝)19:00

パフォーマンス2
日時：10月14日(日)17:00

パフォーマンス3
日時：10月21日(日)13:00

アーティストトーク
日時：10月7日(日)14:00
会場：講堂

"Embodiment of Water". Video stills. 2018. Courtesy of Roberta Lima and CharimGalerie.

山城知佳子

『土の人』(展示)

『あなたをくぐり抜けて—海底でなびく 土底でひびく—
あなたのカラダをくぐり抜けて—』(パフォーマンス)

「記憶の継承は可能か?」という問題意識のもと、時に自らも映像に身を投げ作品を制作してきた山城知佳子。映像作品『土の人』では、神話的ともいえる映像表現で新たな境地を拓きました。この作品では、沖縄戦を記録したサイレントの映像に、ヒューマンビートボックスが奏でる銃撃音がオーバーラップすることで、かつての戦争の記憶が現在の身体と響きあう体験として再生します。今回は『土の人』と、初公開を含む過去作品を展示するとともに、新作パフォーマンスを制作発表します。パフォーマンスでは、ヒューマンビートボックス、ラップ、DJを中心に、音・言葉・音楽と映像表現が混ざり合い、『土の人』の映像体験をライブで体感できる作品となります。終戦後70年を過ぎ、当時を知る人が少なくなりつつある中で、皮膚感覚とイメージの接合を以て想像力に訴えかける山城の作品は、わたしたちが忘れてはいけない出来事を語り継ぎ、生き延びていくためのかすかな光明をみせてくれるでしょう。

山城知佳子

展示『土の人』

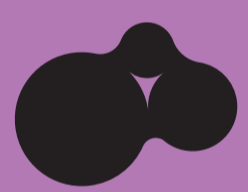
日時：10月6日(土)～11月18日(日)10:00～20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00～22:00
会場：ギャラリー 北・南

パフォーマンス『あなたをくぐり抜けて—海底でなびく 土底でひびく—あなたのカラダをくぐり抜けて—』

日時：10月12日(金)16:00/18:00★、13日(土)11:00/14:00/17:00
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：フリースペース

TOPIC 01

2018.10.6.sat.—10.28.sun.



KYOTO EXPERIMENT 2018

京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

今年で9回目となる「KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭」は、毎年秋に京都市内で劇場を中心として、世界各地から招聘した先鋭的なプログラムを上演しています。今回は、公式プログラムとして、女性アーティストおよび女性性をアイデンティティの核とするアーティスト/カンパニーを紹介します。京都芸術センターでは3本の公式プログラムと、アーティスト・イン・レジデンスプログラムを実施します。

※イベント情報(P.3)もご覧ください



市原佐都子/Q

『毛美子不毛話』『妖精の問題』

『毛美子不毛話』と『妖精の問題』の代表作二本立て上演に挑むのは、東京を拠点に活動する劇作家・演出家の市原佐都子。『毛美子不毛話』では、合皮のパンプスに満足できず本革のパンプスを求めるOLが、さまよう路地裏で次々に奇妙な人物たちに遭遇します。『妖精の問題』では、落語、音楽、セミナーとそれぞれ異なる手法で描かれる3つのパートを、俳優・竹中香子がほぼひとり芝居で語ります。市原は、キャラクターの内面を溢れんばかりに生々しく描き、私たちが日々やり過ごしている些細な違和感を目の前に突きつけます。ぜひこの機会に二作品を鑑賞し、浮かび上がる世界を存分にご堪能ください。

市原佐都子/Q『毛美子不毛話』『妖精の問題』

日時：10月25日(木)19:30[A]★、26日(金)19:30[B]、
27日(土)14:00[B] 19:30[A]、28日(日)14:00[A] 18:30[B]

※[A]毛美子不毛話、[B]妖精の問題
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：講堂

Vegetative State Photo by Isabel Ortiz

京都芸術センター × KYOTO EXPERIMENT

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018

マヌエラ・インファンテ『CHI-SEI.』報告会

KYOTO EXPERIMENT 2016 SPRINGで上演した『動物園』で脚本・演出を手掛けたチリ人劇作家マヌエラ・インファンテは近年、植物など人間以外のものを中心に据えた作品をつくっています。今回のアーティスト・イン・レジデンスプログラムでは、日本文化において植物や石と人間との関係がどう捉えられているのかを探るべく、2ヶ月間京都に滞在します。

8月31日に京都に到着したインファンテは、哲学や神道の専門家にインタビューを行い、理論を中心としたリサーチを開始。10月にはアーティストと交流し、チリで発表する新作の創作に向けて始動します。KYOTO EXPERIMENT最終日には、2ヶ月にわたるリサーチの成果を報告します。

マヌエラ・インファンテ『CHI-SEI.』報告会

日時：10月28日(金)16:30 会場：フリースペース

EVENTS

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）

催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申してください。チケット窓口でも受け付けます。

※㊟印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です（制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外）その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください

※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示

美術

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018：エクステンジ／ARTSPACE オープンスタジオ
シドニーを拠点に活動するアーティストのガーウィン・デビスによる2ヶ月間の滞在制作の成果展示。
会期：9月26日(水)－30日(日)13:00－17:00
会場：制作室2
※入場無料
【関連企画】
アーティスト・トーク
日時：9月29日(土)14:00－15:30
会場：制作室2
※入場無料・事前申込不要
※逐次通訳あり

明倫茶会

「泉扇忌－デュシャンに捧げる茶会にして展覧会(のようなもの)」㊟
日時：9月30日(日)
13:00／14:00／15:00／16:00
席主：小崎哲哉(アートジャーナリスト、プロデューサー)
本席：和室「明倫」
待合：ミーティングルーム2
内容：デュシャンにまつわる飲み物とお菓子と作品とお話
料金：1,000円
定員：各席20名(先着順／要事前申込)

『「名残」というもの－人・人物・季節－』㊟

日時：10月14日(日)
11:00／13:00／14:00／15:00
席主：米澤宗昭(茶人)
本席：和室「明倫」
待合：ミーティングルーム2
内容：薄茶とお菓子
料金：1,000円
定員：各席25名(先着順／要事前申込)

音楽

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2018 パフォーミングアーツ部門
マリオス・ヨアンノー・エリア
『「Sound of Kyoto」アーティスト・トーク』
キプロス出身の作曲家マリオス・ヨアンノー・エリアが、この秋より開始するオーディオビジュアル作品制作についてプレゼンテーションを行います。
日時：9月28日(金)18:00－19:30
会場：ミーティングルーム2
※入場無料・事前申込不要

演劇

演劇計画II 一戯曲創作－
「S/F 一到来しない未来」KAC S/F Lab. オープンラボvol.6「創作と批評」
9月1日に公開された松原、山本による創作中の戯曲第2稿を読解・批評し、戯曲の可能性を探ります。
日時：9月27日(木)19:00－21:00
会場：大広間
登壇：大森望(翻訳家、書評家)、平倉圭(横浜国立大学准教授)
委嘱劇作家：松原俊太郎、山本健介
料金：無料
定員：40名(要事前申込)

KAC Performing Arts Program 2018/ Contemporary Theater
「Re-search & Re-direction かかわりの技法 関連企画
イアン・セガッター(PETA) ワークショップ
BRDGが滞在リサーチした、フィリピン教育演劇協会(PETA)から講師を招き、現地の学校や地域コミュニティで実践されているワークショップメソッドを体験し、学びます。
日時：10月16日(火)、17日(水)18:30－21:30
料金：2,000円(2日間通し)
定員：20名
言語：英語(逐次通訳あり)
対象：劇作家、演出家、俳優。または、教育・地域・福祉などに演劇をつなげ、応用することに興味のある方

会場：ギャラリー北・南
※入場無料
パフォーマンス『あなたをくぐり抜けて－海底でなびく土底でひびくあなたのカラダをくぐり抜けて－』
日時：10月12日(金)16:00／18:00★
13日(土)11:00／14:00／17:00
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：フリースペース
構成・演出・映像制作：山城知佳子
出演：Sh0h(HUMAN BEATBOX ARTIST)、DJ SHOTA(DJ)、Tokiii(RAPPER) ほか
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
U25・学生前売1,500円／当日2,000円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア3,500円(前売のみ)

市原佐都子／Q
『毛美子不毛話』『妖精の問題』
日時：10月25日(木)19:30[A]★
26日(金)19:30[B]
27日(土)14:00[B] 19:30[A]
28日(日)14:00[A] 18:30[B]
※[A]毛美子不毛話、[B]妖精の問題
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：講堂
料金：一般前売2,500円／当日3,000円
U25予約2,800円／当日3,000円
※10月17日(水)まで先得チケット販売
高校生以下500円(前売・当日共)
問合せ：笑の内閣
E-mail：waraino.naikaku.ticket@gmail.com
TEL：090-2075-0759
主催：笑の内閣、京都芸術センター
※Topic02(P4)もご覧ください

ダンス

ニュー・ブランシュKYOTO 2018
ミリアム・レフコウィッツ&ジュリー・ラポルテ
『作品のない展覧会』参加者募集
既に見ることのできない絵画等の作品を、身体で復元・伝承する参加型パフォーマンス。
日時：10月5日(金)
12:45／15:30／16:45／18:00
19:15／20:30 ※各回45分
会場：和室「明倫」
料金：無料
定員：各回4名(先着順／要事前申込)
対象：10歳以上
※動きやすい服装でお越しください
※その他ニュー・ブランシュのイベントはウェブサイトをご覧ください

増田美佳「mimacul」ワークショップ第5回 公開講座「書くことと体」
Co-program カテゴリーC(共同実験)採択企画。言葉と体について考えるワークショッププログラムの第5回として行う公開講座。
日時：10月7日(日)14:00－15:30
会場：ミーティングルーム2
講師：千葉雅也(哲学者・批評家)
料金：無料
定員：40名(要事前申込)
主催：増田美佳、京都芸術センター
※Topic03(P4)もご覧ください

KYOTO EXPERIMENT

ロベルタ・リマ『水の象』インスタレーション
日時：10月6日(土)－21日(日)10:00－20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00－22:00
※10月21日(日)は17:00まで
会場：講堂
※入場無料・事前申込不要
※10月8日・14日・21日はパフォーマンス終了まで入場いただけません

パフォーマンス1
日時：10月8日(月・祝)19:00
パフォーマンス2
日時：10月14日(日)17:00
パフォーマンス3
日時：10月21日(日)13:00

会場：講堂
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
U25・学生前売1,500円／当日2,000円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア3,500円、ロベルタ・リマ『水の象』セット券5,400円(前売のみ)

アーティスト・トーク
日時：10月7日(日)14:00
会場：講堂
ゲスト：大塚真帆(株式会社招徳酒造・杜氏)
※入場無料・事前申込不要
※逐次通訳あり

山城知佳子「土の人」『あなたをくぐり抜けて－海底でなびく土底でひびくあなたのカラダをくぐり抜けて－』

展示「土の人」
日時：10月6日(土)－11月18日(日)10:00－20:00
※プレオープン 10月5日(金)17:00－22:00

会場：ギャラリー北・南
※入場無料
パフォーマンス『あなたをくぐり抜けて－海底でなびく土底でひびくあなたのカラダをくぐり抜けて－』
日時：10月12日(金)16:00／18:00★
13日(土)11:00／14:00／17:00
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：フリースペース
構成・演出・映像制作：山城知佳子
出演：Sh0h(HUMAN BEATBOX ARTIST)、DJ SHOTA(DJ)、Tokiii(RAPPER) ほか
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
U25・学生前売1,500円／当日2,000円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア3,500円(前売のみ)

市原佐都子／Q
『毛美子不毛話』『妖精の問題』
日時：10月25日(木)19:30[A]★
26日(金)19:30[B]
27日(土)14:00[B] 19:30[A]
28日(日)14:00[A] 18:30[B]
※[A]毛美子不毛話、[B]妖精の問題
★ポスト・パフォーマンス・トークあり
会場：講堂
料金：一般前売2,500円／当日3,000円
U25・学生前売2,000円／当日2,500円
高校生以下1,000円(前売・当日共)
ペア4,500円
[A][B]2演目券4,500円(前売のみ)

京都芸術センター × KYOTO EXPERIMENT
アーティスト・イン・レジデンスプログラム 2018
マヌエラ・インファンテ『CHI-SEL』報告会
日時：10月28日(金)16:30
会場：フリースペース
出演：マヌエラ・インファンテ ほか
料金：無料
申込：KYOTO EXPERIMENT事務局
TEL：075-213-5839
WEB：https://kyoto-ex.jp

※Topic01(P1)もご覧ください

建築

京都文化カプロジェクト2016-2020
建築ワークショップ「茶室と庭をつくろう」
身近にある材料を使い、京都芸術センターに茶室と庭をつくります。
日時：9月23日(日)13:00－16:30
会場：講堂 ほか
対象：小学生以上、大人も大歓迎(小学4年生以下は保護者同伴)
ファシリテーター：加藤比呂史(建築家)
参加費：無料
定員：30名(要事前申込)
持物：身の回りにある不要なもの

ライブラリー

「あの人の、おすすめ本」
京都芸術センターに縁のあるあの人、この人からのおすすめ本をコメントとともに紹介します。今回は劇団ユニット「したため」主宰、KYOTO EXPERIMENT 2018事務局の和田ながらさんです。
日時：10月1日(月)－12月24日(月・祝)
10:00－20:00
※休室日：10月31日、11月30日
会場：図書室

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。(参加無料)

シアターリミテ「大きな声で詩を読んでもようー身体が出たがっている声に出会うとは?!
群読や輪唱を通じて、ムリなく気持ちいい声を出します。
日時：10月6日(土)10:30－12:30
会場：制作室4
定員：10名
対象：小学生以上(小学生の場合は保護者同伴)
持物：タオル、水分補給ができるもの
※動きやすい服装でお越しください

笑の内閣「モリエールを読む」
モリエールの戯曲数本を抜粋して読むことで、その構造を考えます。
日時：10月12日(金)19:30－21:00
会場：制作室10
定員：10名
※Topic02(P4)もご覧ください

筒井潤「公開稽古&WS参加者との“うまくまとめない”意見交換会」
11月に上演するダンス作品の稽古を公開し、“うまくまとまらない”感想や意見を交換します。言葉を解放し、その可能性を探求します。
日時：10月19日(金)16:00－17:45
会場：制作室10
定員：10名

KACセレクション

かえるP『 スーパースーハー』㊟
日時：9月29日(土)15:00／19:00
30日(日)14:00
会場：フリースペース

TICKETS チケット販売

KAC Performing Arts Program 2018 / Traditional Performance
継ぐこと・伝えること 61
『享楽×呵々大笑－落語－』㊟
日時：11月17日(土)開場18:30 開演19:00
会場：大広間
出演：柳亭小痴楽
司会：広瀬依子(『上方芸能』元編集長、演劇ジャーナリスト)
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
高校生以下500円(前売・当日共)

Co-program カテゴリーA(共同制作)採択企画
MuDA衝突ダンスパフォーマンス
『立ち上がり続けること』㊟
日時：11月23日(金・祝)、24日(土)19:00
25日(日)15:00
会場：講堂
料金：一般前売3,000円／当日3,500円
学生前売2,000円／当日2,500円
ペア5,000円(前売のみ)
チケット取扱：京都芸術センター、MuDA
E-mail：muda.reserve@gmail.com
主催：MuDA、京都芸術センター

Ensemble FOVE presents
『TRANS』㊟
日時：11月27日(火)19:30
28日(水)15:00／19:30
会場：講堂
作曲：坂東祐大
出演：Ensemble FOVE(上野耕平[サクソフォン]、中川ヒデ鷹[ファゴット]、伊藤亜美[ヴァイオリン]、安達真理[ヴィオラ]、地代所悠[コントラバス]、荒木奏美[オーボエ]ほか)
料金：前売3,000円／当日3,500円
主催：Ensemble FOVE、京都芸術センター

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および㊟印の共催事業・制作支援事業

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

OPEN CALL 募集

第39期制作室使用者募集
若手芸術家の活発な創作活動を支援するため、造形および舞台芸術作品の制作を行う制作室(全12室)を提供します(審査有)。
使用期間：2019年4月1日(月)－9月30日(月)
使用料：無料
条件：
・1申請につき使用期間は最大3ヶ月
・新しい芸術表現を試み、継続的な活動を展開していること
・制作した作品を京都芸術センター以外の場で発表する具体的な計画があること
・市民との交流事業の実施
・毎月実施の制作室連絡会への参加
募集期間：9月1日(土)－9月30日(日)(必着)

ロームシアター京都×京都芸術センターU35創造支援プログラム「KIPPU」募集
応募資格：
・京都で1ヶ月以上創作し、舞台芸術作品を上演することに意欲があること。
・代表者あるいは主たるアーティストが概ね35歳以下の個人及び団体。
・過去に2作品以上、上演経験があること。
・舞台芸術のジャンルは問いません。
・新作、再演など形態は問いません。
・居住地、活動拠点は問いません。

出演：小野彩加、新宅一平、大園康司、橋本規晴

料金：一般前売2,800円／当日3,000円
U25前売2,500円／当日2,700円

主催：申込・問合せ：かえるP

E-mail：kaeruppp@gmail.com

中川佳代子箏・三弦研究室
『現代邦楽作品展～FINAL～』㊟
現代邦楽作品を紹介するシリーズの最終回。
日時：11月8日(木)開場18:30 開演19:00
曲目：杏越(山本邦山作曲)等
出演：中川佳代子(箏)、二代山本邦山(尺八)、中村公俊(ヴァイオリン)、丸田美紀(十七絃)
料金：前売2,500円／当日3,000円
中学生以下無料
主催：中川佳代子箏・三弦研究室
E-mail：kayoko_kotokoto@ybb.ne.jp

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

みみききプログラム
#1 明倫レコード倶楽部
「喜怒哀楽のレコードの旅」㊟
日時：[其ノ67]哀の会
12月1日(土)開場14:30 開演15:00
[其ノ68]楽の会
2019年3月2日(土)
開場13:30 開演14:00
会場：講堂
料金：500円(1ドリンク付)
講師：いしいしんじ(作家)

#2 素謡の会「うたいろあはせ」第2回㊟
日時：12月18日(火)
受付18:00 開場18:30 開演19:00
会場：大広間(待合：講堂)
演目：〈親世流)経正、〈金春流)花月
出演：林宗一郎、田茂井廣道、高橋忍、山井綱雄、白坂信行
料金：前売1,500円／当日1,800円
※みみききプログラム共通の半券割引が利用できます

第252回市民狂言会
日時：12月7日(金)開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館(左京区)
演目：福部の神 勲入り、察化、鱧包丁、鏡男
出演：茂山千作、あきら、千三郎、千五郎、宗彦、茂、逸平、童司、忠三郎
料金：前売2,500円／当日3,000円
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ(Pコード：488-237)
※団体券2,200円(20名以上)は京都芸術センターにて取扱
主催：京都市

チケットぴあで取扱いのチケットは、電話、ぴあ窓口、コンビニエンスストア(セブンイレブン、サークルKサンクス)の専用端末などからご利用いただけます。
WEB：http://t.pia.co.jp
TEL：0570-02-9999

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および㊟印の共催事業・制作支援事業

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

応募条件：
〈京都芸術センター 制作室〉
公演日の最長3ヶ月前から使用可。
最短でも1ヶ月は使用すること
〈ロームシアター京都 ノースホール〉
以下のいずれかの日程で、ロームシアター京都 ノースホールで上演できること(以下の日程には、仕込み、リハーサル、本番、撤去すべて含みます)
2019年12月9日(月)－13日(金)
2020年2月5日(水)－11日(火・祝)
2020年2月17日(月)－23日(日)

応募締切：10月9日(火)(必着)

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2019：エクステンジ／ソウルダンスセンター
コレオグラファー募集
2019年8月－9月にソウルダンスセンターでリサーチ、クリエイションに取り組むコレオグラファーを募集します。
支援内容：
・制作費1,800,000韓国ウォン(約180,000円相当 ※2018年7月現在)
・往復航空券(日本－韓国間)
・宿泊場所、スタジオの提供
・コーディネーターのサポート
応募締切：11月15日(木)(必着)

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

TOPIC 02

Co-program カテゴリーA

第26次笑の内閣

『そこまで言わんでモリエール』 京都公演

アーティストや企画者と京都芸術センターが共同し新たなパ
ラダイムを創出するCo-programカテゴリーAに、強烈な皮
肉とケレン味の利いた芝居で社会を風刺する「笑の内閣」が
登場。フランス古典喜劇を代表する劇作家を相手取り、新
境地を拓きます。

笑の内閣は「彼氏がネトウヨ(ネットで無根拠
な極右発言をする人)になる」「ヤクザの人権」
「男尊女卑を肯定する女性」など、現代社会の皮
肉な状況のキャラクターに着目し風刺するコメディ
を制作してきました。今回は京都芸術センターとの
共同主催とし「……下々の諸君、笑の内閣上皇の
高間である。……」失礼いたしました。笑の内閣の
今回のテーマは、「アイドルと契約。契約でがん
じがらめの中、そこに自由な表現「……それは助成
金申請の締切の関係でチケットに書いたもの、今
回はモリエールをやるのだ。」

我々笑の内閣の芝居は何都市でも上演してい
るし韓国にも行ったし、政治家やヤクザも見にく
し大変活躍しているのに、演劇界からはイロモノ扱
いを受けて無視され、批評家も観に来ない。しかし、
モリエールをみればわかるように、社会や世相を
茶化し、批判し、それを見て笑い転げるのは演劇と
して極めてオーソドックスである。こうした演劇の王

道ともいえることをやっているのに、我々がイロモノ
扱いされているのは納得がいかん。観てから文句
言われるのならともかく、観てないのに「内閣はまあ
いいや」とかいうやつがいるのも腹立たしい。

そこで古典に挑戦することにしたのだ。モリエ
ールは社会を皮肉な作品で歴史に残っているが、政
治家とつき合うのが好きだし、女癖も悪いし、契約
もおかしい、前座もやるし、劇団員もみんな下手だ
し他人と思えん。ので、彼の劇団の連中を舞台に
出す本を書いたのだ。んなもん全然古典をやるん
じゃないだろ?と言われるが、かなり色んなモリエ
ールの戯曲から引用してるんだから、実質古典だつて。
「恋に落ちたシェイクスピア」みたいなものだ。

表現の自由について今更騒がれているが、我々
のような小劇団が企画を話したら「ぜひやりましょ
う!!」みたいに言う割に、いざ発表してネットで叩
かれたら「アーティストの表現の自由です」とか
作家に責任を丸投げにするとところも多いのだが、そ
の点今回は企画段階からガツリ口出されている
ので、もし叩かれたら内閣と芸セン(注:京都芸術
センターのこと)は一蓮托生である。古典をやりますと
言うのなら、批評家も無視できんやろし、市の事
業である芸センも言い訳できるやろという見事な策



第26次笑の内閣「名譽男性鈴子」 撮影:脇田友

なのである。いつもどおり現代社会の批判もするの
で、観にくるよう。」

今回の原稿は、笑の内閣の高間響さんに乗っ取られました。笑の内閣
の批判精神と、取っ組み合って創作しています。観にくるよう。」
谷竜一(アートコーディネーター)

Profile

笑の内閣

2005年旗揚げ。しばらくは実際に舞台上でプロレスをする「
プロレス芝居」を上演していたが、体力の限界を感じて、時事ネ
タ・風刺ネタコメディに路線転換。「福島に修学旅行に行く」
「女性差別する女性」「ヤクザの人権を守ろう」といった際ど
いテーマで芝居を作っている。政治・言論方面は特に強さを
みせ、「風営法のダンス規制」を扱った作品では永田町に呼ば
れたり、東浩紀氏主催のゲンロンカフェで上演したり、内容が
反社会的だと劇場から上演拒否にであったり、森友学園の入学
説明会にいったら追い出されたりと騒ぎも多い。代表作「ツレ
がウヨになりまして」は「彼氏がネトウヨになってしまう」という
あらずしながら、韓国で上演をするという快挙を成し遂げた。

Co-program カテゴリーA 採択企画 第26次笑の内閣

『そこまで言わんでモリエール』[Ⓜ]

(京都公演)

日時: 10月31日(水) - 11月4日(日)

会場: フリースペース

作・演出: 高間響

出演: 髭だるマン(爆劇戦線と田謙二)、高瀬川
すてら、アバ太郎、熊谷みずほ、しらとり
まな(てまり)、上原日呂(月曜劇団)、土肥希
理子、由良真介、BANRI(Sword Works)、
岡本昇也、山下ダニエル弘之、亮介(株式
会社イリアモデルエージェンシー)、澤田誠

企画・製作・主催: 笑の内閣、京都芸術センター
※本公演は東京公演もございます。詳細は笑
の内閣ウェブサイト(<http://warainonaikaku.sitemix.jp/index.html>)をご覧ください
※イベント情報(P2)もご覧ください

TOPIC 03

Co-program カテゴリーC(共同実験)採択企画

増田美佳「mimacul」



Co-program カテゴリーCの採択企画として、8月から半年間にわたるワークショ
ップがスタートしています。「mimacul(ミマカル)」は、ダンサーの増田美佳による企
画。mimaculとは、「身罷る」と「culture=文化、培養」を組み合わせてつけられた
名前。増田によれば、「私たちが死ぬまでのあいだ、つまり生きていくことの様々
をじっくり身勝手に考える集まり」を目指しています。

増田はダンサー、俳優として活動しながら、文筆家の嵯峨実果子
としてコラムを連載するなど多彩な活動を展開し、言葉と体
の間を行き来しつつ双方向から現在形の体のあり方を探求するアー
ティストです。ワークショップでは、月に2回のペースで顔を合わせ、書く
ことと体の様々なワークを通じて書く/読む/読まれることを経験しな
がら、それぞれの文体を探ります。

6・7月に募集を行い、多数応募のあった中から、年齢や性別、バック
グラウンドも多様な面々が mimacul のメンバーとして選ばれました。

第1回は、自己紹介ならぬ「自己周辺」と題したワークを行いました。
事前に与えられたお題は、「自宅にある物を何か一つ持ってくる」とい
うもの。猫の置物、はなむけのキーホルダー、お気に入りの日傘、拍
子木、CD、写真、指輪などが集まりました。持ち主が自分の選んだ物
について話したあとは、ほかのメンバーが思い思いの質問をしていく
というワークで、物を契機に思いがけないエピソードが広がったり、
相手にどんな質問を投げかけるかが翻ってその人自身についての語
りになっていました。

第2回のテーマは「五七五」。句会歌会301に所属する俳人の山本
真也を講師に迎えて行いました。メンバーのほとんどは全くの未経験
でしたが、「季語を使う」「五七五を基本にする」ということをルー
ルに、俳句を詠んでいきました。与えられた型のなかで身動きのとれ
ないもどかしさがある一方、その中ではじめて選択できるものご
とがあります。型に身をゆだねることで自由になれる「書くこと」の感覚は、
「体」の感覚とどのようにつながっていくのでしょうか。

今後、月に2回のペースで行われるワークショップでは、ストレッチ
をしながら自分の体を味わってみるワークや、君が代の新しい歌詞を
考えて歌ってみるワーク「きみがよ」など、書くことと体について様々な

方向から探って行きます。10月7日には、ゲスト講師として哲学者・批
評家の千葉雅也を招き公開講座を行います。メンバー以外の方も
聴きただけですので、ぜひご来場ください。

mimaculでは、リレー形式で半年かけて一本の小説を書いて
いくワーク「まち」もブログにて随時更新していますので、ぜひ
のぞいてみてください。ワークショップの様子は「mimaculog」
をご覧ください。



當間芽(アートコーディネーター)

増田美佳「mimacul」ワークショップ 第5回

公開講座「書くことと体」

日時: 10月7日(日)14:00-15:30 会場: ミーティングルーム2

講師: 千葉雅也(哲学者・批評家)

料金: 無料 定員: 40名(要事前申込)

主催: 増田美佳、京都芸術センター

Profile

増田美佳

1983年京都生まれ。ダンサー、詩人・文筆家 嵯峨実果子のゴーストライター。これまで
に山下誠、松本雄吉、岡田利規、相模友士郎、篠田千明、林慎一郎などの舞台作品に
出演。嵯峨実果子としては『パラビリオの森』『Kawalala - rhapsody』にて展覧会イメ
ージとなる短編小説を執筆。ウェブマガジンCLASSROOM Mag にてコラム「惑生探訪
記」を連載中。第33回世田谷文学賞詩部門受賞。京都市立芸術大学非常勤講師。

千葉雅也

1978年生まれ。哲学者、批評家。立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授。著
書に『動きすぎたはいけない——ジル・ドゥルーズと生成変化の哲学』(河出書房新社)、
『勉強の哲学——来たるべきバカのために』(文藝春秋)、『思弁的実在論と現代につ
いて——千葉雅也対談集』(青土社)など

Since 1971
MAEDA'S COFFEE
KYOTO ART CENTER 1F
MUROMACHI, TAKOYAKUSHI
NAKAGYOKU, KYOTO
TEL.075-221-2224
10:00~21:30 everyday

感覚の
あそび場
An Imaginative
Playground
for the Senses

夏休み企画展「感覚のあそび場
—岩崎貴宏×久門剛史」
2016年7月26日 - 9月11日
展覧会カタログ 定価 500円(税込)

京都芸術センター窓口、もしくは下記ウェブサイトより
ご注文いただけます。
<http://www.kac.or.jp/shop/>

KYOTO ART CENTER 京都芸術センター



交通案内

- 市営地下鉄烏丸線「四条」駅/
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
- 市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間

- ギャラリー・図書室・情報コーナー 10:00-20:00
- 談話室・チケット窓口 10:00-21:30
- カフェ 10:00-21:30
- 制作室、事務室 10:00-22:00

休館日

12月28日から1月4日
※設備点検のため臨時休館することがあります

T 604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL: 075-213-1000 FAX: 075-213-1004
E-mail: info@kac.or.jp URL: <http://www.kac.or.jp/>
twitter: @Kyoto_artcenter
facebook: <http://www.facebook.com/kyotoartcenter>

